



No. 184

平成27年10月25日発行

電話072-895-6230

名前 _____

塾報受取日 _____ 月 _____ 日

星の郷教室 11月の予定

- 10月28日 11月度授業料引落日
(11月9日 引き落とし予備日)
11月1日(日) 特別強化練習
11月3日(火) 全関西学生選手権
11月21日(土) i-test11月一斉実施日
11月23日(月) そろばん大阪一決定戦
12月5日(土) 暗算検定
(通常授業があります)

特別練習の予定と対象者

- 10月31日 午後5時～7時
○アドバンスト・チーム (A-team)
○全関西出場者
○そろばん大阪一決定戦出場者
11月1日 午前10時～午後4時
○申込制です。右の案内をご覧ください。
11月7日 午後5時～7時
○アドバンスト・チーム (A-team)
○そろばん大阪一決定戦出場者
○11月i-test受験者
11月14日 午後5時～7時
○アドバンスト・チーム (A-team)
○そろばん大阪一決定戦出場者
○11月i-test受験者
11月21日 午後3時～5時

○そろばん大阪一決定戦出場者のみ
午後5時～7時

- アドバンスト・チーム (A-team)
○そろばん大阪一決定戦出場者
○暗算検定受験者
○あんざんチャンピオン大会出場者
11月28日 午後5時～7時
○アドバンスト・チーム (A-team)
○暗算検定受験者
○あんざんチャンピオン大会出場者
○クリスマスカップ出場者

☆11月1日 特別強化練習☆

午前10時～午後4時まで、星の郷教室で行います。参加資格は、11月3日の全関西出場者と、11月23日のそろばん大阪一決定戦出場者です。正午から1時間、昼食休憩をとります。昼食は家に食べに帰っても教室に持ってきて構いません。参加者は31日までに申し出て下さい。

☆11月21日 i-test11月号☆

11月のi-test一斉実施日は11月21日です。午前10時30分から行います。21日の受験が無理な場合、他の日に受けることもできます。受験申込書がリニューアルしました。練習成績や過去の試験結果を表示していますので、一人ずつ異なる申込書になります。新しい申

込書は希望する生徒の皆さんに配布していきます。

中学生クラス

11月17日、11月24日の午後7時20分から9時まで中学生のみの勉強とそろばん練習用に教室を解放します。活用して下さい。

☆11月3日全関西学生選手権☆

会場は守口門真商工会館。京阪電車「門真市」駅下車15分です。できるだけ、現地集合・現地解散にご協力下さい。大会は午前10時30分開始、午後5時終了予定です。昼食を準備しておいて下さい。観覧席が若干数あります。中学生以上は制服着用です。

☆11月23日大阪一決定戦☆

会場は大阪商工会議所。午後1時開始、午後5時終了予定です。早めの昼食をすませてから集合となります。集合場所と時間は後日お知らせします。現地集合・現地解散も可能です。制服着用。

全日本通信 大阪府大会結果

(10月18日実施 守口門真商工会館)

☆個人総合競技

小学4年生以下の部

2 位	山内美空	1 5 9 0 点
	永津敦之	1 4 9 0 点
3 位	由比彩葉	1 1 7 0 点

小学校の部

優 勝	大内峻聖	1 9 9 0 点
準優勝	梶本悠生	1 9 8 0 点
2 位	岩成 桃	1 7 1 0 点
3 位	和泉初音	1 5 9 0 点
	田代和花	1 5 2 0 点
	四宮彩花	1 4 6 0 点
	湊 結子	1 4 5 0 点

中学校の部

優 勝	大内悠聖	1 8 4 0 点
2 位	岩成 海	1 4 7 0 点
3 位	神山 周	1 2 1 0 点
	奥田あさひ	1 1 9 0 点
	木村理仁	1 1 8 0 点

高校・一般の部

3 位	山内星徳	1 3 3 0 点
-----	------	-----------

☆団体総合競技

小学校の部 準優勝 藤が尾小学校

(梶本悠生・和泉初音・齊藤小春)

2 位 私市小学校

(大内峻聖・盛井結子・古川愛佳)

3 位 妙見坂小学校

(湊結子・岩瀬菜々香・越野貴也)

中学校の部 2 位 交野第三中学校

(神山周・奥田あさひ・河野美紅)

☆読上算競技

小4以下 優勝 永津敦之

小学生 優勝 大内峻聖

3 位 梶本悠生

中学生 2 位 大内悠聖

高校・一般 3 位 山内星徳

3 位 岡田秀樹

☆読上暗算競技

小4以下 2 位 永津敦之

2 位 山内美空

小学生 優勝 大内峻聖

2 位 梶本悠生

2 位 田代和花

3 位 齊藤小春

3 位 和泉初音

中学生 優勝 大内悠聖

高校・一般 優勝 岡田秀樹

出席時間20時間以上の生徒

(10月20日までの1ヶ月)

梶本悠生47 田代和花45 村田拡己42

盛井結子42 奥田花41 平生絵理39
奥田南海39 西松優大38 和泉初音37
藤江茉奈37 湊結子37 山内美空37
大内峻聖36 沼田輝36 西松美咲36
井上心結35 岩瀬菜々香34 金本愛夢
33 永津敦之33 田中章太郎30 大上
航正29 山根未来28 和泉琴音27 井
上楽耀27 西井萌27 見山紀子27 吉
永灯27 松岡晃大26 大土井穂賀26
大土井慧賀25 岩成桃25 越野貴也25
古川愛佳25 松井一真25 堀さやか24
若林日和24 今中僚23 岩成海23 澤
田一心23 井上寛大22 池田優花22
上林剛士22 神山周22 竹下綾音22
西井颯一郎22 中村颯希21 西畑美伶
21 今中倅21 小林千尋21 茅島悠斗
21 由比彩葉21 近藤楓20 木中心大
郎20 小林知世20 福井夏歩20

(あと1時間で20時間) 有田こころ 出口来実
岡田亜瑠 分林椿 林和花 久本和奏 森本倫才

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ペ
ージ以上進んだ生徒)

松井一真95 今中僚52 根岸豊52 室
宏樹44 岸宝輝43 中村咲太39 宮城
葵39 加藤美希38 久堀力翔35 松本
悠花35 橋本栞里33 溝川心音31 下
岡和生30 松田和也29 三好駿風28
高谷楓乃27 長小田幹太27 藤井琥太
郎27 半埜叶乃芭26 三木翔雲26 林
寿百25 今門克将24 中野佑美23 平
田峻大23 菅瑞稀22 安田和平22

フラッシュ暗算合格者

(10月20日までの1ヶ月間)

九段 山内星徳

八段 湊結子

六段 吉永灯

五段 盛井結子

二段 奥田花 池田優花

初段 奥田花 小林知世 村田拡己

1級 津隈瑛翔

2級 井上心結 田中章太郎 福井太一

3級 西松美咲 井上心結 福井太一

4級 石川ひなた 辻翔太

5級 沼田輝 西畑美伶 松岡晃大

6級 柳田涼音 松岡晃大

7級 木中心大郎 柳田涼音 松岡晃大

8級 藤原梨乃 久本和奏 南佐優里

9級 若林奈優 藤原梨乃

10級 青田裕哉 中野佑美 吉岡春葉

取り組む人から伸びていく

9月中頃から、かけ算で意識的に左
手も使うように、全員に指導をしてい
ます。

最初から完璧にできるわけがありま
せん。少しずつでいいのです。0は何
倍しても0のままですが、少しでも取
り組めば、日を追うごとに技術はかな
らず上達していきます。

というような話を毎時間のようにし
ながら時間を計りますが、さあ、どう
でしょうか。現時点で左手を使ってい
る生徒の割合は半分程度でしょうか。

8月の合宿で初めて左手を使う取り
組みを始めた生徒が、10月25日の段位
試験に向けての練習で、左手を器用に
使っています。その生徒は、合宿では
なかなか最初の一步が踏み出せずに
いましたので、「上手な人が左手を使っ
ているのではなく、使っていく人が上
手になるのです」と何度も繰り返し言
い続けました。

誰か知らない人の左手を使うわけ
はありません。自分の指なのです。最

初のごちなささえ我慢できれば、できるレベルとできるまでにかかる時間に差はあっても、必ず会得できます。

「一步踏み出す勇気」を発揮する人が、「熱心に取り組む習慣」を身につければ、あとはかける時間の分だけ上達します。

さて、この「熱心に取り組む習慣」はどのようにして身につくものなのでしょうか。

10月24日土曜日。午後3時から7時まで、1～3級と段位試験に向けての特別練習を行いました。4時間ありますが、都合の良い時間だけ練習すればいいシステムです。4時間ぶっ通して練習する生徒もいますし、用事の合間をぬって短時間だけ練習に来る生徒もいます。

試験前日の特別練習では、私の方から練習内容の指示は積極的には行いません。生徒たちから出てくる問題のリクエストに応じて印刷したり、答案をチェックし、間違えた原因を探ったり、より効率的な方法をアドバイスしたりというのが主な仕事になります。

試験は、生徒自身が課題を直視し、克服に向けて真剣に考えて取り組む絶好の機会です。小学生は小学生なりに、中学生以上も年齢相応に、どうすれば少しでもいい結果につながるだろうかと考えて練習内容を決めています。

試験前日の特別練習には、こういう良い空気が充満しています。是非とも多くの人たちにこの空気を吸って欲しいと思います。

ところで、物事には必ず例外があっ

て、こんな空気の中でも自分のペースを決して崩さない強者がいます。日頃は今ひとつの態度であっても、せめて試験の前日くらいはがんばるものだと思うのですが、事ここに至っても集中力に欠けていたり、間違え直しもせずにプリントを片付けたりする生徒のことです。

ここで冒頭に掲げた「熱心に取り組む習慣」に戻ります。力の入れ時に、力を発揮できないのではなくて力を発揮しようとしないう心根は、いったいどこに原因があるのでしょうか。

ある心理学者は、「気質」は遺伝的な要因で決定されやすく、「性格」は生まれてきてからの環境の要因が大きいといいます。これを肯定するならば、性格は変えられます。環境の要因が大きいわけですから、性格はいわば「心の癖」であって、「良い癖」を付けていけば良い性格になるはずです。

過去を変えることはできませんが、将来は今から決めることができます。そろばん・あんざんの練習や授業を通じて、子どもたちが自己肯定感を高められるように取り組む必要性を一段と強く感じた特別練習でした。

さて、今月の塾報では、現在大学院に通う生徒の作文を紹介します。授業終了後、その生徒に大学院で研究している内容を尋ねたところ、「聴導犬」という聞き慣れない言葉が出てきました。漢字を見れば想像はつきますが、是非とも生徒の皆さんに見知らぬ世界に触れて欲しいと思い立ち、作文を依頼しました。

大学院1年生。10月25日の段位試験

を受験しました。前日の特別練習には、良い空気を作るかけがえのない一人として参加し、同時に良い空気からたくさんのやる気と刺激を受け取って帰っていきました。

こんにちは。倉澤悠維(ゆい)と申します。いつも、「この大きい人は誰や?」という目で小学生の生徒さんたちに思われているのではないかなと思います。簡単に自己紹介させていただきます。

現在22歳の大学院生です。龍谷大学で社会福祉を学び、今年の3月に卒業し、4月から神戸大学大学院保健学研究科というところで身体障害者補助犬(以下、補助犬)について研究しています。星の郷総合教室に入塾したのは、学校でかけ算を習い始めた小学2年生の約15年前だったと思います。そして中学2年生の時に退塾し、2011年の大学生になった時から再び金本先生のところでお世話になっています。段位は再開してから少しだけ更新し、現在珠算、暗算ともに3段です。

そろばんの話とは少しずれますが、補助犬の話をしてください。「私と出会った人たちに少しでも補助犬のことを広める」ことが研究での自分の目標なので、たくさんの方に読まれている塾報での貴重な場をお借りして補助犬を紹介させていただきます。

まず、補助犬とは身体障害者補助犬法という法律で定義されている盲導犬、介助犬、聴導犬をまとめた名称です。

知っている方も多い盲導犬は、視覚障害者の歩行をサポートする犬です。

介助犬は肢体不自由者(主に車椅子

等を利用されている人)のために、物を拾ったり運んだり、着替えの手伝いをしたり、扉の開け閉めやスイッチを点けたりして障害者をサポートする犬です。

聴導犬は、聴覚障害者に音を知らせ、サポートする犬です。

2015年9月の時点で、日本で活動している補助犬頭数は、盲導犬984頭、介助犬74頭、聴導犬60頭です。(厚生労働省HPより)全都道府県で活躍しているのは盲導犬のみです。

2002年から法律が施行され、改正も行われて、今では一部の事業所や公共施設で補助犬の利用を拒んではならないとされています。しかし、今この塾報を読みながら、「知らなかった」と思った方も多いと思いますが、補助犬が世間に知られていないため、飲食店やお店など普段誰もが利用する場所で「犬はダメです。」と断られてしまうのです。

補助犬は障害者にとって活動面だけでなく精神面においても大切な存在であり、障害者がより社会参加できる機会を与えてくれているのだと思います。そのため私は補助犬が普及していけるように研究をしています。この機会に一人でも多くの皆さんに補助犬に興味をもってもらえると嬉しいです。厚生労働省のHPに「ほじょ犬」というページもありますので興味をもっただけなら調べてみてください。

前置きが長くなってしまいましたが、私とそろばんのことについて話させていただきます。初めは姉妹で本教室に通い、知らぬ間に姉は退塾し、私は一人で中学生まで続けていました。小学5年生頃からは大会や合宿にも参加させてい

いただきました。

中学に入り部活や高校受験に向けての学習塾で忙しくなり中学2年生の時に涙をこらえて「退塾させていただきます。ありがとうございました。」と金本先生に挨拶したことを覚えています。

受験が終わり、高校にも少し慣れてきた頃、もう一度そろばんを習いたと思いました。しかし、受験の結果は併願校となり「学費が高い」「勉強で忙しい」といわれる高校に入学したため、親に月謝を払ってほしいと頼むことができず高校3年間で過ぎました。そして大学生活が始まり塾講師のアルバイトも始め、新しい生活に慣れてきた頃、またそろばんをしたいと思いました。大学受験も第一志望合格ではなく、高校時代そろばんを続けていたらどうなっていたらだろう、違う進路もあったのかな、珠算部がある大学っていいなあなどと思うようになり、もう後悔はしたくないと思い、勇気を出して星の郷教室に電話をかけました。すると、教室に来ていいよと快く金本先生からお返事をいただき再び通わせていただくことにしました。

大学生になり、星の郷教室での経験を通してたくさんのことを学びました。そろばんの技術だけではありません。金本先生という先生から学んだこともあります。私は大学で教員免許を取得し、5年目になる塾講師のアルバイトをするうえで金本先生のような先生を目標にしています。この教室で生徒という立場でありながら先生についても学ぼうと勝手に思っています。

金本先生が一人ひとりにあった指導をされていることをみて、私も心掛けて

いることがあります。それは私がアルバイト先の塾で数学を教えている時、生徒の計算ミスの原因を見つけるようにしていることです。そのように心がけていると、文字の写し間違い、掛け算間違い、筆算のやり方間違いなど、人それぞれの特徴がみえてきました。ポイントを絞った指導が通じたとき、(私の中のイメージですが、)生徒の頭の中の電球がピカッと光ったように思える瞬間があり、とても嬉しいと感じます。

そろばんに身に付けたことがそろばん以外のところで活かされた気がしたことがあります。事務のアルバイトをしていた時、何種類かの書類を、表に書かれた枚数ごとに数えていくという作業がありました。私は左手で書類を数え、右手では他の書類をとり、目は表を見て、次は何枚かなと確認し、右手、左手、視線がそれぞれ別の動作をし、次の作業のことを考え効率よくできるように作業していました。ここでの左手はまさに小・中学生の頃にそろばんを練習した伝票をめくる作業です。そして目は、教室で普段から言われている、「答えを書きながら次の問題をみる」ように手を動かしながら次のことを見ていました。そろばんに身に付けたことが他の場面で自然と行動にでていたのではないかと感じた瞬間でした。

最後に練習についてです。私は昔からこつこつ何かを続けることが苦手です。いつも直前に慌てるタイプです。小学生の頃は時間もあったので毎日のようにそろばんに通っていました。しかし、大学生になってからはそんな時間もありません。よく塾報でこつこつ練習することが

大事と書かれているのを読みながらなかなか実行に移せずにいました。週1回、時には週に1回もいけない練習量では成績もなかなかのびませんでした。

そこで、少しでも練習時間を増やせないか考えました。思いついたのが、電車の中でも暗算なら出来る！ということでした。大学の通学が片道2時間かかるので、無駄に携帯を触り、寝たりしているならやってみようと思い入れることにしました。初めはフラッシュ暗算のアプリをダウンロードしていましたが、今は問題を持ち歩くようにしました。自宅または移動時間に毎日1種目でもすることが目標です。まだまだ毎日続けることは難しいですが、だんだんと「今日やらなかったらまた劣ってしまう」と、やらないことが不安に感じられるようになってきました。手がスラスラ動いている気がする、間違いが減ってきた気がする、そんなささやかな変化ですが実感できるようになりました。まずは次の検定まで続ける、と大きすぎない目標にしています。「3日坊主でもいい、4日目からまた始めればいい」という言葉をどこかで聞いたことがあり、その言葉を思い出すと私でもがんばれそうな気がするのです。

自宅で続けるのも大事ですがやはり教室に行って練習することも大事です。教室では自分の周囲に座っている人の手の速さに刺激を受け、圧倒され、焦ってしまいます。一人でやっている時よりも緊張します。しかし、会場で行われる検定や大会で精一杯力を出すにはこのような状況に慣れておくことも大事だと思います。

また、自己採点ではマルになる数字で

も、他の人の採点では読めない数字になってしまうことや制限時間できっちりと手を止めることなど教室では自宅より厳しくなります。教室に行くまでは気持ちのならない日もありますが、教室で練習することの大切さに改めて気づくことができました。

そろばんを続けてきた経験から学んだこと、得たこと、練習のことについて私を感じたことを書かせていただきました。15年経ってやっと気づくことができました。15年経ってやっとなんかあります。今までやってきたことが今になってつながっていると実感できるとすごく楽しくなってきました。

そして、なによりも私はそろばんが大好きです。大会で優秀な成績を残したこともなく、受験勉強も失敗続きで何も自慢できるようなこともありません。将来そろばんを仕事にする予定もありません。でも、教室に練習に行き、先生の「よいはじめ！」で一斉に教室に珠をはじく音が広がり、「やめ！」で一斉に静まる、その雰囲気大好きです。練習を終え教室を出た時はすっきり、爽快な気持ちになります。だから続けているのだと思います。

私は教室で私よりも若い生徒さんたちを見て、そろばんが好きなら私みたいに後悔しないようにどんなことがあろうと続けてほしいなと思っています。

これからも、みなさんに刺激をもらいながら、そろばんの技術だけでなく自分自身も成長できるように頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。
